

環境ミニ知識

新聞、テレビ、ニュースなどで見聞きするけれど、あまり知らない「言葉」や「現象」について少し知ってもらえたらいいな！と、ミニ知識を紹介するコーナーです。



エアコンの節電テク

昨年と並び、今夏の平均気温は過去 2000 年で最も暑かったそうです。来年も厚くなることが予想されます。そこで今更ですが、そんな暑い夏の必需品であるエアコンの節電テク。ご存知ですか？空気の循環を良くして温度ムラを無くすために扇風機、サーキュレーターを併用すると月〇円の削減に！ではエアコンの風向きは下向きがいいか水平がいいか？…正解は水平！これで月〇円削減。設定温度は 28℃が推奨されていますが 28℃では…と言う時、1℃下げるか風量を強にするか？正解は「強にする」です。これで月〇円の削減。他にもいろいろあります。皆さんも調べてみてはいかがでしょうか。

(注:削減金額は家庭により異なるため〇円としています)

今ホットなワード「ピーファス」「ペロブスカイト」

「ピーファス」「ペロブスカイト」いずれも今ホットなワードです。すでに会報誌でも取り上げていますが、まだまだ知られていないようなので再度ご紹介します。**ピーファス**:有機フッ素化合物の総称でフライパンや防水・防汚加工、半導体製造など、広く使われています。**ペロブスカイト**:ペロブスカイト(灰チタン石)という鉱物のことで、この鉱物の結晶構造を利用しているのが「ペロブスカイト太陽電池」です。今次世代太陽電池として注目され、2030 年には 70%。がこの太陽電池になるともいわれています

ひとこと



今年の夏は暑かった。今もまだまだ暑い！この調子でいくと秋がなくなるのではないかと心配になります。地球温暖化が叫ばれて、間もなく40年が経とうとしていますが、改善されるどころか進行しているといった状況です。そんな中、「枚方から気候変動を考える～ひらかたアッチッチサミット～」を開催しました。(詳細は2面をご覧ください)

この夏の暑さに、多くの方が「温暖化問題、何とかしないと」との気持ちでご参加下さったのではないかと思います。



ひらかた環境ネットワーク会議 会報「環境ひらかた」第83号

令和6年10月1日発行(年4回発行)

発行:(特活)ひらかた環境ネットワーク会議



〒573-0042 大阪府枚方市村野西町5番1号

サブリ村野 南館2階

電話 072-847-2286

FAX 072-807-7873

Eメール jimukyoku@hirakata-kankyou.net

ホームページ <http://www.hirakata-kankyou.net>

発行責任者:井上 浩一 編集責任者:丸井 晶子

この発行誌は再生紙を使用しています

市民・事業者・行政が協働し 環境先進都市を実現する ひらかた環境ネットワーク会議 会報誌

NO. 83
秋号
令和6年
(2024年)

環境ひらかた



楽しみながら
水辺の観察もしました!

恒例となった夏休み親子イベント「天の川を遊ぼう」を今年は、夏休みも終わりに近い8月22日(木)に実施しました。今年は公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構の助成を受けることができ、水質検査薬の購入や網の新調ができました。台風が心配されていましたが、お天気に恵まれ魚を追いかけたり、ささ舟レースをしたりと「川遊び」を楽しみました。勿論、遊びだけでなく、ごみ拾い、水質検査、川の危険についての学びもばっちりでした。

****目次****

環境ミニ講座 天の川を遊ぼう	P1
ひらかたアッチッチサミット報告	P2
インターン生紹介	P3
部会報告	P4・5
お知らせコーナー	P6
環境トピック VOL.49	P7
環境ミニ知識	P8



私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。今回は、「EU最大の電力源は再生可能エネルギー」「日本近海の水温 過去最高だった」の問題です。

◆EU最大の電力源は再生可能エネルギー

欧州連合統計局の発表によると、EUの2023年の再生エネルギーによる発電は前年比で12.4%増え、全電力生産の45%と最大の電力源だったという事です。方や化石燃料の全電力生産は前年より20%減り33%だったとのことです。＜出展：EIC（一般財団法人環境イノベーション情報機構）＞

一方日本における発電割合は、2022年度の発電実績によると化石燃料によるものが72.7%、再生可能エネルギーによるものは21.7%と、未だに化石燃料依存度が高い状況にあります。温暖化対策の国際ルール「パリ協定」では「産業革命前より気温上昇を1.5℃以内に抑える」ということを目標にしていたのですが、その1.5℃が目前に迫っているのです。また昨年開催されたG7広島サミットの環境相会合で出された共同声明に化石燃料の段階的廃止がありましたが、廃止時期は明記されていません。欧州などは廃止時期の明記を求めていましたが、日本の反対で明記されなかったのです。日本政府は本気で再生エネルギーへの転換にかじを切ってほしいものです。

◆日本近海の水温 過去最高だった

海水温が史上最高を更新したとBBCが報じたのは昨年(2023年)8月のことでしたが、今年7月には日本近海の今年上半期の海面水温が1982年以降の観測史上で最も高かったことが気象庁のデータでわかったと報じられました。中でも北海道の東に広がる海域では平年より2.38度も高かったとのことです。

海水温の上昇による影響は深刻です。広く知られているように海は巨大な二酸化炭素の吸収源ですが、海水温が高くなれば、それが吸収されず大気中にとどまりさらに温暖化を加速させることとなります。このように、海と気候変動は密接な関係にあります。具体的な現象として起きていることは「温暖化による氷河の溶解で海面が上昇」「本来弱アルカリ性である海水が、酸性に傾くことによるサンゴの白化」「サンゴの白化が引き起こす海の生態系への大きなダメージ」等々。さらに海水温が高くなることで、台風も大型化することは皆さんもご存知の通りです。また海水温の変化は潮の流れにも大きな影響を与えると共に、日本近海でとれる魚にも変化をもたらし、私たちの食卓にも影響してきます。

二酸化炭素濃度をこれ以上上げないために、私たち一人一人ができることに取り組んでいかなければなりません。

枚方から気候変動を考える ひらかたアッチッチサミット 第一回開催

会報誌夏号でお知らせした『枚方から気候変動を考える ひらかたアッチッチサミット』の第1回目が先月9月7日(土)に開催されました。4回シリーズの第1回目という事で、まずは温暖化についての知識・情報を共有しようと、NPO法人地球環境市民会議の専務理事であり、弁護士でもある早川俊光氏を講師に迎え、ご講演いただきました。1時間半にわたりお話いただきましたが、定員いっぱいの30名の参加者全員が熱心に耳を傾けておられました。

次回2回目は10月5日(土)10:00~12:00です。



弁護士 早川 俊光 氏
NPO 法人地球環境市民会議専務理事

熱心に耳を傾ける参加者



講演での重要ポイント

★地球の歴史の中で、寒冷期と温暖期は定期的に繰り返しているのが現在の温暖化は問題ないとする科学者がいる。しかし、そのサイクルは1万年という長い周期で起きている。今起きているのは100年という短い周期で起きていることが問題。

そのことが何故問題か？動物は移動などにより辛うじて対応できるが、植物はその場所を移動できず、変化についていけない。地球の動植物を生産者と消費者という視点で見ると、生産者は植物、消費者は動物と言える。生産者がいなくなれば、消費者は生きていけない。

★温暖化を止めることはできないかもしれないが、私たちにできることは「こまめな節電と省エネ商品の選択」だ。しかしこれでは気候危機は防げない。「仕組みを作る」ことが重要。誰が？やはり国が本気で作る。本気になればできる。そのことは冷蔵庫とフロンガスの件で証明されている。

ティッピングポイント (転換点)

・大気中の温室効果ガス濃度がある程度の濃度を超えたり、平均気温の上昇がある程度の温度を超えると、制御不能になり、**後戻りできない状況 (不可逆的)**になる。

ティッピングエレメント

- ・南極やグリーンランドの氷床の崩壊。
- ・サンゴ礁の死滅。
- ・大西洋子午面循環の変化。
- ・永久凍土の融解。
- ・アマゾンの熱帯林の衰退。
- ・8月中旬には**グリーンランド**の3000mを超す山頂で、**観測史上初めての降雨**が観測された。

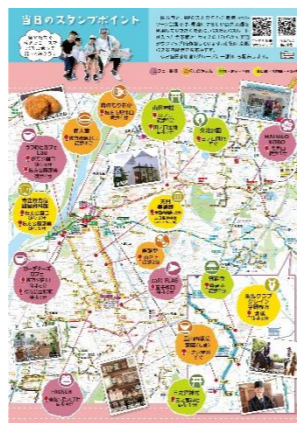


お知らせコーナー

このコーナーの情報に関する申し込み、お問い合わせはひらかた環境ネット会議事務局までご連絡ください。 ☎072-847-2286

10月5日は「バス！のってスタンプラリー」です

環境にやさしい公共交通が私達の足として未来にも存続し、まちの活性化を維持できる社会の実現とCO₂削減を目的に、公共交通利用促進施策として実施しています。今年34回目になります。是非ふるってご参加を♪♪詳しくはチラシをご覧ください。



情報コーナーに新コーナーが



この夏、環境情報コーナーの一角に「**食器のリユースコーナー**」ができました。

このコーナーは「循環型社会推進課」の取り組みに協力する形でおこなっています。循環型社会推進課では、今年度より陶磁器やガラス製品、植木鉢等の回収に取り組まれることになり、その展示を環境情報コーナーで行っているのです。既にたくさんの方に利用いただいています。ぜひ一度足を運んでみられてはいかがでしょうか？

素敵な掘り出し物に出会えるかもしれませんよ。

今月下旬 リユースコーナーの棚替えをします

まだまだ暑い毎日ですが、リユースコーナーの衣類の棚替えを行います。夏物から秋冬物へと総入れ替えです。お子様の、はたまたお孫さんの秋冬衣料の準備にぜひご活用下さい。

棚替えに当たってのお願い

夏物を片付け、秋冬物をサイズ・種類ごとに仕分けして棚に並べていきます。結構な作業量になります。そこで皆さんにお手伝いのお願いです。下記日程で行いますのでお手すきの方は事務局までご連絡ください。よろしくお願ひします。

実施日：10月21日(月)10:30～



今年もインターン生が！ 3人3様に環境への意識が高まりました

関西大学 社会安全学部
太田 一史



僕は1回生ということもあり、インターンシップに参加するかどうか正直とても悩みました。しかし、夏休みを有意義に使おうと思い参加を決意しました。今まで環境問題については、学校の先生などから提示されて考えるということしかやってこなかったもので、いざ自分で考えるとなると、とても難しいことだと実感しました。また自身が物事を深く掘りさげていくことで新たな発見があり、自分が今まで知らなかった世界を知ることができました。インターンシップに参加することを決断し、インターンシップを終え成長を感じています。どんなことでも、とにかくやってみる。この精神で残りの 大学生活を大切に過ごしていきたいと思います。

関西大学社会学部心理学専攻
塚元 琳太郎



最初はただ漠然と環境問題に直に触れたいとの思いでひらかた環境ネットワーク会議に来ました。様々な環境問題の中で、特に興味を持ったのはマイクロプラスチックの問題です。この問題に焦点を当て、企画を考え内容について議論を重ねていきました。そのときのいろんな方々の意見が自分の中で残っていて、環境ネットの事務所に来るときに成長ができたと感じています。自身の人生で、環境について一番考えた期間であり、環境に関する知識を多く取り入れることができた1ヶ月間でもありました。このインターンシップが終わっても環境問題に関わり続けていくので、ここでの経験をいかして社会課題解決の一翼を担えるよう頑張ります！



大和大学社会学部社会学科
山口 実緒璃

環境の分野は非常に広範囲です。この夏のインターンシップでは、環境問題について多様な視点から学ぶことができたと感じています。まず、問題解決の際には、どういった視点からのアプローチが有効なのか、一つの事柄を「いかに深く掘り下げてみていくか」が重要で、そうすることが「新たな理解に繋がる」ことなど、職員の皆さんから様々なアドバイスいただき、環境への理解が深まりました。特に、企画書作成に当たっては、自分の想いや周囲の状況、企画意図を明確化することの重要性を学びました。企画立案は一つ一つ根拠のある情報を集めて考える大変な作業であり、「なぜ」を追求する「掘り下げ」作業がいかに時間を要するものかを実感すると同時に、こうした“作業”を通して自身の環境への理解が大いに広がったことも感じました。また、職員の皆さんとの雑談では、日常生活やこれからの人生に関する貴重な教を得ることができました。このインターンシップは、私にとって非常に有意義な経験となり、今後の人生にこの学びを活かしていきたいと思っています。





部会活動紹介

ひらかた環境ネット会議では、それぞれテーマごとに部会を結成し、主体的に活動を行っています。

環境教育部会

～温故知新と次世代へのステップアップ～

NPO 法人環境ネットワーク会議は 2004 年 2 月に任意団体として設立しました。今年 2024 年 2 月には丁度 20 年を迎えましたが、今の環境教育部会の前身である環境教育サポート部会では、発足当時から環境出前授業を継続しており、過去の記録から小学生だけでも一万人を超える児童に環境教育を行ってきたことに驚きました。そこで改めて過去の活動の歴史(あゆみ)を振り返り、『持続可能な開発目標(SDGs)と環境問題の関係』という新たな視点を加えたプログラムに見直しをしています。まずは部会員が正しい「環境の基礎知識」を身につけ、更に、部会活動を SDGs や新しい環境情報も取り入れる「学び直し(リカレント)」の機会として定例部会も毎月開催する中で今年の「ECO検定」に挑戦し合格した部会員もいます。また部会活動だけでなく、NPO 主催の「環境ミニ講座」「環境ティールーム」など、環境問題を身近なところから学ぶ講座にも積極的に参加し、環境問題の新たな気づきや一般参加者との交流で得た生の情報も部会で共有しています。当面の活動は、小学校から依頼のあった 11 月のオープンスクールでの環境出前授業のテーマ「酸性雨」の新たな講師陣とスタッフでのリハーサルと準備です。

当部会では、「各自のやりたいことや得意なこと」を環境出前授業や環境講座に活かしていくことが、ボランティア活動のやり甲斐と社会貢献に繋がると信じて、過去の経験を活かしながら、次世代の環境教育推進事業に取り組んでいきたいと考えています。

このような取り組みに関心のある方は、是非一緒に活動しましょう！



酸性雨の説明スライドと地球に見立てた水槽を使った出前授業のリハーサル風景

自然エネルギー部会

「自然エネルギースポット」紹介リーフレット作成準備中！

皆さんは枚方市内の事業所や公共施設に、どのぐらい「再生エネルギー施設」が導入されているかご存知ですか？実は、少し前の自然エネルギー部会のミーティングで「太陽光パネルをつけてる家が増えてきたね」という話が出た折「工場や会社にはどのぐらい導入されてるのかなあ」「公共施設の状況は広報でわかるけどね」という話から、「自然エネルギースポット紹介リーフレットを作ろう」ということになりました。とは言えどのように進めるか……。話し合った結果「枚方市温暖化対策地域協議会」と「商工会議所」の協力を得ようと言ことになりました。おかげさまで両会合わせて 30 社から(この原稿を書いている時点)アンケートにご協力をいただくことができ、目下作成に向け準備を進めているところです。出来上がりをお楽しみに！！

ところで、自然環境部会では不定期で五六市会場にて街宣活動(温暖化対策に関するアンケート調査)を行っているのですが、活動に遭遇された方はありますか？アンケートの質問の一つに「2020年に枚方市が2050年カーボンニュートラル宣言をしたことを知っていますか」という問いがあります。知っていると答えた方は 72%、

28%の方は知らないという答えでした。

しかし、枚方市が宣言したことは知らなくても、アンケートに参加して下さった多くの市民の皆さんは、各自できることにはきちんと取り組んでおられました。また活動中にはいろんな声を聞くことができました。一部ご紹介します。

「一人一人が意識しないと温暖化は止まらない」
「些細な事でも皆で頑張っていかななくては！！」

あなたはどんな声を聞かせてくれますか？

